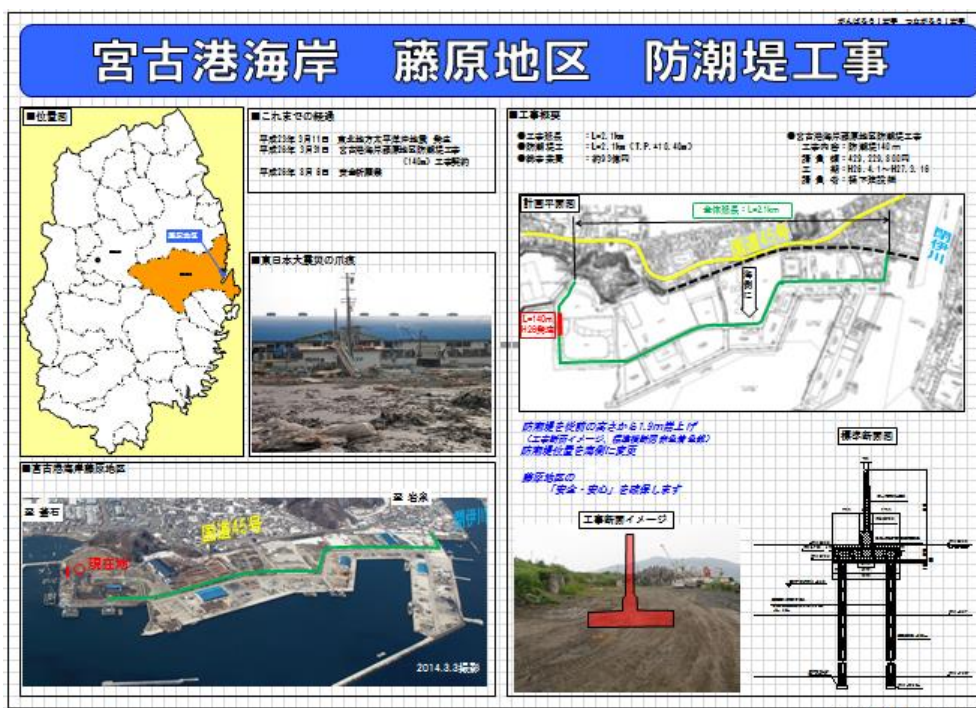


派遣先所属 岩手県沿岸広域振興局土木部宮古土木センター
 氏 名 山崎 豊 (やまざき ゆたか)
 派遣期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の宮古土木センターでは河川、港湾、道路の復旧・復興及び維持管理に関する業務を行っています。当センターの職員数は、全体で96名で内訳は岩手県職員44名、任期付職員17名、他県応援職員20名、非常勤等15名となっております。業務内容は、管轄する宮古市、山田町の震災により被害を受けた公共土木施設の復旧事業、新たに新設する復興事業及び通常の維持管理を行う業務です。震災から3年半が過ぎましたが、当事務所の災害復旧事業の現状は平成25年度末で発注ベースで約70%です。岩手県では、平成26年度から28年度の3年間で「本格復興期間」と位置付け、被災者一人ひとりが安心して生活を営むことができ、将来にわたって持続可能な地域社会の構築を目指して事業を進めています。本年度は、その1年目として、大規模な復旧・復興工事が着手となる大事な年となっております。



担当業務の事業概要

担当業務は、河川港湾課の港湾海岸チームに属し、港湾事業である防潮堤工事、委託業務の積算、発注、監督業務、関係機関との調整を行うものです。

岩手県では津波対策の基本的な考え方として「多重防災型まちづくり」を推進しています。これは、防潮堤など海岸保全施設の整備、復興まちづくり、緊急避難道路の整備や防災文化の醸成などのソフト対策を組み合わせ、被害をできるだけ最小化するという「減災」の考えにより、安全で安心な防災都市づくりを進めようとするもので、この考えに基づく地域づくりの実現に向け、防潮堤事業の早期完成に努めていきたいと思います。

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

住居が海岸より内陸寄りのため、日ごろは被災地であることを忘れるくらい日常生活に不便はなく、周りの風景ものどかではあります。県内の沿岸に行ったところ、更地のところが多く、地盤沈下により水が溜まったままの所もあります。内陸の方に向かっていくと多くの仮設住宅があり、大きな被害を受けた地域では住宅や市街地の再生はまだこれからという感じがしました。



被災地の状況



被災したままの防潮堤